次男坊判官

山根貞男のお楽しみゼミナール

「次男坊判官」は一九五五年の大映作品で、市川雷蔵のデビューから七本目、単独の主演作としては三本目に当たる。題名から見ても、明らかにひとつ前の作品「次男坊鴉」との連続性において発想されたにちがいない。「次男坊鴉」での役が、やくざ＝実は東本の次男坊というのだから、金さん＝遠山金四郎へは一直線である。

いうまでもなく〝遠山の金さん〟は時代劇ヒーローの定型で、戦前から多くの男優が演じてきた。新スター市川雷蔵を売り出すのにその切り札を使用しない手はなかろう。

……若駒姿がたまらないと人気わき立つ雷蔵の魅力満開！

この映画の惹句の一部である。こんな惹句もほかにある。

……一作ごとに魅力をます、雷蔵がまたまた見せる剣の冴え！

当時の市川雷蔵売り出しの勢いがよくうかがえよう。ことに〝若駒姿〟が強調されている点に、雷蔵＝爽やかな気品というイメージが見て取れる。念の入ったことに、映画では、まるで惹句を証明するかのように、菖蒲屋の離れにいる主人公に、近所の若い娘たちが〝若様〟〝若様〟と嬌声をあげるシーンが、ちゃんと描かれる。

脚本は衣笠貞之助。戦前からの時代劇の巨匠で、とりわけ林長二郎時代の長谷川一夫を人気スターにしたことで知られる。大映としては市川雷蔵を長谷川一夫に迫いつく時代劇スターにしたかったのであろう。この直後、雷蔵は監役ながら初の現代劇「薔薇いくたびか」において監督衣笠貞之助と初めて仕事をすることになる。

監督の加戸敏も、大映で長谷川一夫と多く組んでいた時代劇のベテランである。ここにも雷蔵売り出し作戦の狙いが明らかであろう。

ところで〝遠山の金さん〟は武士なのに町人になり、その間、帯を変えるが、この映画のように帯を結い直すシーンがあるのは珍しい。桜の刺青を入れるくだりもある。そんな新鮮さこそが市川雷蔵の魅力といえよう。

■キャスト
遠山金四郎　市川雷蔵
寿女郎　浅茅しのぶ
お八重　峰　幸子
榊原重蔵　市川小太夫
梅の三吉　杉山昌三九
谷山栄十郎　潮万太郎
遠山金之丞　岡鯉新太郎
照姫の侍女　鷹門光三郎
おしげ　浦辺粂子
大黒女郎　若杉葉子
お静　鳴　公子
有袋女郎　大美智子
彫為　荒木　忍
槍岸俊之　東良之助
直助　水原洋一
長吉　天野一郎
鈴木左内　水野　浩
吾八　伊達三郎
紀氏の親分　石原須磨男
千松　千葉登巳男
鳴海早太　西岡タツオ

■スタッフ
製作●浦井　誠
企画●浅井昭三郎
脚本●衣笠貞之助
監督●加戸　敬
撮影●芦田千吉郎
録音●大角正夫
照明●岡本健一
音楽●山田栄一
美術●太田誠一
編集●西田重雄
装置●梶谷勝男
装飾●松本春造
背景●小倉清三郎
美術●福山雄也
結髪●花井りつ
衣装●長谷川敏子
義士行●黒田　豊

TND9745
昭和30年度作品
83分・モノクロ

◎本商品は保存状態から最良の状態で製作しておりますが、映画公開時より長い年月を経ておりますので、一部作品にはお見苦しい場面もございます。あしからずご了承ください。